

指定管理者評価シート

事業名	生涯学習センター運営管理費	所管課(電話番号)	教育委員会総務部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	---------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市生涯学習センター (札幌市教育センター開放施設を含む)	所在地	西区宮の沢1条1丁目1-10
開設時期	平成12年8月25日	延床面積	12,106㎡
目的	市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現を図る。		
事業概要	・生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関すること。 ・生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。 ・生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。 ・生涯学習に関する事業を行う団体の連携及び交流の支援に関すること。 ・学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。 ・生涯学習センターの施設を使用に供すること。 ・その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業。		
主要施設	ホール、講堂、研修室、音楽・演劇スタジオ、メディアプラザ(図書、学習相談コーナー)等		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由：当該施設は、札幌市における生涯学習施策を推進していくための総合的な中核施設であり、指定管理者には生涯学習に関する専門的な知識や事業の企画立案に関するノウハウが必要であるとともに、運営管理にあたっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成が必要であることから非公募とした。		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸室業務、学習機会提供事業、学習活動支援事業等		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 令和7年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 ▼ 指定管理運営業務として定めた下記の基本方針・事業目標に基づき、管理運営を実施した。 ○学びを支える環境づくりの推進 ○学びを育む人づくりの推進 ○快適に利用できる施設環境の整備とサービスの向上 ○環境に配慮した効率的・効果的な事業運営	・基本方針・事業目標に基づき、ハード面、ソフト面の両方のアプローチから総合的に管理運営をすることができた。	A B C D 適正な管理運営により、要求水準を達成していると認められる。

▼ 財団の「ミッション」「経営ビジョン」に基づき中期経営計画を定め、第1期(R6～R9)の重点取組事業として以下の取り組みを進めた。 ○さっぽろ市民カレッジあり方検討事業 ○メディアプラザあり方検討事業 ○生涯学習センター貸室利用促進事業 ○生涯学習センター利便性向上事業 ○自立型職員育成事業 ○経営安定化推進事業	・市民カレッジやメディアプラザのあり方検討については、現状を踏まえた課題などについて議論を行った。 ・各部屋の紹介動画をホームページに掲載するとともに、利用促進を目的としたイベントをスポット的に実施するなど、貸室の利用促進に取り組んだ。また、9月には新たな貸室予約システムを導入し、オンラインによる予約受付やクレジットカード決済、コンビニ決済を可能とすることで利用者の利便性向上を図ることができた。結果として、利用件数、利用者数について前年度を上回ることができた。	・貸室の紹介動画や利用促進のイベント実施、オンライン決済の導入など、利用者の利便性向上に繋がる取り組みは大いに評価できる。 ・市民カレッジやメディアプラザのあり方については、引き続き議論を深め、生涯学習の中核施設として市民に自主的な活動及び交流の場を提供するための方法を模索していただきたい。
▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ▼ 貸室の平等な利用機会を確保するため、抽選による受付を実施した。併せて、メール等による抽選申込を受け付けることで、月初に来館できない利用者についても平等に抽選へ参加できる運用とした。 ▼ 多くの市民に情報を提供するため、ホームページや広報誌の発行などの広報活動を行った。 ※ 詳細は「生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関する業務」を参照	・関係条例や規則を遵守し、平等利用の原則を確保することができた。 ・引き続き市民ニーズを捉えた対応で市民サービスの向上を目指す。	・平等利用は公の施設の運営における要であるため、引き続き利用者への丁寧な説明を続けながら、平等利用の確保に努めていただきたい。

▼ 各所のスロープや手すり等の適切な維持管理を行うとともに、視覚や聴覚に障がいのある受講者に対しては、講座室内の座席配置を調整するほか、窓口において利用者の求めに応じて筆談による対応を行うなど、施設面・運営面の両面からバリアフリー環境の維持に努めた。また、ウェブアクセシビリティに配慮したホームページの運用を図った。	・ハード、ソフト両面から障がいを理由とする差別の解消の推進に取り組むことができた。 ・実施状況で報告したもの以外にも、公共施設として合理的配慮の提供に努めていく。	・「障害者差別解消法を踏まえた札幌市の対応方針」及び「共生社会の実現に向けた札幌市職員の接遇要領」を参考にした職員への研修も行い、誰にでも利用しやすい施設の運営に努めていただきたい。
▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進		
▼ 事務用品について、環境にやさしい製品やリサイクル商品、詰め替えで再利用できるものなどを使用し、ゴミの軽減等に努めた。また、内部の事務手続きだけでなく、貸室事業などの一部事業においてもデジタル化を進め、ペーパーレス化を図った。	・リサイクル商品の価格や事務の能率性も勘案しながら環境配慮を行った。 ・ペーパーレス化を進めることで、コストの削減や環境配慮の推進につながった。今後もペーパーレス化は進めていくが、高齢者の利用が多い施設であることから、デジタル・ディバイドには十分に配慮していく。	・事務効率性も考慮しながら、環境に配慮した施設運営を行っていることは評価できる。 ・ちえりあ内の他施設とのやり取りには電子メールを利用するなど、ペーパーレス化をさらに進めていただきたい。
▼ 利用者の快適性と省エネルギーの両立を図るため、一律の温度設定による運用ではなく、各室の利用状況や利用者の状況を踏まえながら、適宜室温を調整した。 一方で貸室利用者に対しても、省エネルギーのための適切な冷暖房利用を呼びかけた。	・利用者の健康面や快適性に配慮した適切な室温管理や照明の運用を行うことで、省エネルギーの推進と環境負荷の低減の両立に努めることができた。	・環境配慮の観点に加え、光熱費高騰の状況を踏まえて、引き続き利用者に支障が生じない範囲での節電をお願いしたい。
▼ 利用者に支障が生じない範囲で館内照明の間引きを行うとともに、未使用の貸室やフロア廊下の消灯を徹底するなど、節電に努めた。 また、常設しているものの利用頻度が低いホール楽屋の冷蔵庫について、常時通電を見直し、使用時のみ電源を入れる運用とするなど、省エネルギーの推進に努めた。		

▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成） ▼ 統括責任者としてセンター長1名、職務代理者として課長2名、ほか係長5名（うち1名は課長事務取扱）を配置した。 ▼ 適宜職員の採用を行い、業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。 ▼ 係単位で定期的に会議を行い、様々な問題について協議するとともに、グループウェアを活用することで職員間での情報共有体制を構築した。 ▼ 財団の「人材育成基本方針」に基づき、令和7年度も外部講師による自立型職員育成研修を実施した。（研修会参加一覧参照） また、その他にも社会人としての資質向上につながる研修や専門的な技術や知識を学ぶ講習会などに積極的に職員を参加させた。	・前年度兼務していた施設課長と財団総務課長をそれぞれ専任とし、人員体制の整備を図った。 ・適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を図った。 ・組織内での情報共有体制の構築により、迅速かつ適切な市民サービスを提供することができた。また、いつでも一定の質が担保されたサービスを提供できるよう、業務の標準化や安定化に努めた。 ・今後の事業の足掛かりとなるような事業を試行的に行うなど「人材育成基本方針」に基づいた職員研修の効果は少しずつ出ているものと認識している。引き続き職員の育成に取り組んでいく。	・職員の時間外勤務が増えていることから、業務の見直し、適切な人員配置により、労働環境の向上に努めていただきたい。 ・職員が入れ替わっても同じ対応ができるよう、情報の共有や業務の標準化、安定化に引き続き努めていただきたい。 ・外部講師による研修や専門的な技術、知識を学ぶ講習会への参加など、人材育成に積極的に取り組んでいることは評価できる。 ・社会教育士の称号取得やそのための社会教育主事講習の受講にも積極的に取り組んでいただきたい。
---	--	---

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ グループウェアや各種アプリケーションなどデジタルツールを積極的に活用した業務体制づくりを進め、部署内および各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。

▼ 日常から事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に究明の上、改善、再発防止を図るよう心がけた。

▼ 貸室予約システムの運用
新たな貸室予約システムを導入し、利用者登録から予約、支払いまでの手続きを、WEB上で完結できる仕組みを整備した。

▼ 事故対応要領に基づき、事故防止、事故発生時における、組織内の役割分担、緊急連絡体制などを整備し、迅速かつ適切な対応を心がけた。また、正職員だけでなく、契約職員及びパート職員に対して危機管理に関する研修を昨年度より回数を増やして実施した。

・デジタルツールの適切な運用により業務の効率性を高め、管理水準の向上に努めた。

・業務マニュアルの見直しを行い、作業の標準化と対応手順の明確化を図ることができた。

・利用者からの要望が多かったオンラインでのクレジットカード決済とコンビニ決済を導入することができた。今後は窓口でのキャッシュレス決済の導入も検討し、さらなる利便性の向上につなげていきたい。

・職員一人ひとりが事故の未然防止を意識して業務に取り組む、安全な施設運営を図ることができた。
・複合施設として、館内各施設・団体とも事故情報等を逐一共有することができた。
・事故発生時の初動対応に関する研修を実施し、危機対応能力の向上を図った。

・デジタルツールの利用においては、セキュリティ対策を万全にし、特に個人情報の取り扱いにはご留意いただきたい。研修の中で、セキュリティや事故防止への職員の意識付けをお願いしたい。

新たな貸室予約システムの導入により、オンライン決済を導入したことは大いに評価できる。今後も利用者の要望を踏まえた利便性向上の取り組みを期待する。

・複合施設は、関係者が多いため、万が一の際には迅速な対応ができるよう、改めて連絡体制の確認を引き続きお願いしたい。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

- ▼ 警備、清掃及び施設管理等の委託業務について、日報、月報及び各種報告書により管理状況を確認するとともに、毎月定例会議を開催し、現状把握や今後の対応に関する情報共有を行うなど、適正な維持管理に努めた。
加えて情報共有の新たな取り組みとして、警備員室、清掃詰所及び監視室にモニターを設置し、センター事務室から館内情報を随時発信できる仕組みを構築した。これにより、関係職員間の情報共有の迅速化が図られた。

・委託業務に係る各種マニュアルに基づき、適正な業務管理を行うことができた。
・故障や破損等の早期発見、不審者対応に関する協議など、日常的な情報共有を図ることで、委託事業者との連携強化及び適切な業務監督につなげることができた。
・日報については、翌日の出勤職員が複数人で確認する体制を継続し、業務の実施状況を組織的に確認することで、適正な業務運営の確保を図ることができた。

・新たなモニターの設置や複数人での確認体制など、適正な委託業務の管理に努めたことは大いに評価する。
・第三者への業務委託については、指定管理者制度上、その実施責任はすべて委託者にあることを十分認識し、引き続き適切な指導監督にあたっていたきたい。

▽ 委員会及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月5日)	委員6名参加 ア 令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画等 イ 令和6年度指定管理者評価報告 ウ 令和6年度市施設利用者アンケート結果報告 エ 令和6～7年度苦情・要望等報告(2～7月)
第2回 (11月18日)	委員5名参加 ア 令和7年度 上半期事業報告 イ 公益財団法人札幌市生涯学習振興財団 第1期中期経営計画 重点取組事業
第3回 (3月4日)	委員6名参加 ア 令和7年度事業報告(4月～1月) イ 令和7年度利用者アンケート結果報告 ウ 中期経営計画重点取組事業 進捗状況 ・次年度計画

・有識者、関係者を交えた会議の中で、施設管理上の様々な問題点やこれからのセンターの展望について、有益な意見を頂戴し、積極的な協議を行うことができた。

・運営協議会は外部からの意見を聞ける有益な場である。運営協議会での意見を今後の施設運営に活かしていただきたい。

<協議会メンバー>

- ・佐久間章(北海道社会教育ネットワーク 代表)
- ・中野裕之(西のコンサ通り商店会 会長)
- ・竹田慎一(さっぽろ市民カレッジ 講師)
- ・川上敏正(一般社団法人 札幌市区民センター運営委員会 常務理事・事務局長)
- ・新津明久(所管局・札幌市教育委員会総務部生涯学習推進課長)
- ・毛利泰大(札幌市生涯学習センター長)

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 流動性や利回り、安全性に留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。
- ▼ 「経理面での不正防止対策要領」及び「小口現金取扱要領」に基づき、現金残高、銀行口座、郵便振替口座の確認、領収書の作成及び保管、金券類、小口現金の管理を行い、適正な事務処理を行った。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情については、利用者ニーズとして適切に記録するとともに、迅速な対応に努めた。また、その内容を職員及び関係団体と共有し、より良い施設運営に向けた改善及びサービス向上の参考とした。

・所管部局による検査及び公認会計士による外部監査の結果、適正に管理しているとの評価を受けた。

適正に実施していると認められる。引き続き職員間での日常的なチェック体制を確保し、金銭面での事故の無いよう適正な管理に努めていきたい。

・意見、要望、質問について迅速な回答と対応を行った。

・適切に対応していると認められる。
・苦情等への対応については、迅速な対応に加え、相手方の申出内容・状況を正しく聞き取り、施設側の事情を説明する際には誤解の無いよう丁寧な説明を心がけていきたい。
・また、引き続き職員間での情報共有を行い、同様の事例や意見に対して、対応の差が出ることの無いようお願いしたい。

	▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼ 利用者アンケート及び各種事業の参加者アンケート等によるセルフモニタリングを実施するとともに、寄せられた要望や意見・苦情については、所管局と連携しながら適切に対応した。 ▼ 札幌市の業務財務検査に向けては、記録・帳簿等の適切な整備保管状況など要求水準を達成したかなどについて、自己チェックを行った。	・利用者アンケートの集中収集期間を設けることで、多様な利用者から施設利用に関する要望や意見を幅広く把握することができた。 ・寄せられた要望や意見については整理・分析を行い、個別に回答したほか、施設内での共有・公表、所管局への報告を適切に行った。 ・利用者アンケートで要望が多かったクレジットカードによる貸室料金の支払いを一部導入した。 ・利用者アンケートの「満足度」では、例年通り高評価を得ることができた。	・利用者アンケートで、高い満足度を維持できていることは大いに評価できる。 ・クレジットカードによる支払いを導入し、利便性が向上したことについても評価する。 ・今後も利用者の声を大切に、寄せられた要望・意見については真摯な対応を引き続きお願いしたい。								
(2) 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなど、適正な労働環境の確保に努めている。また、法定労働時間を超えての労働については、36協定を締結し、労働基準監督署に届け出ている。カスタマーハラスメントに関しては、貸室窓口などにカスタマーハラスメント防止へのポスター類を掲出したほか、財団事務局の職員が研修を受講し、2026年10月からの対策義務化に備え、準備を進めている。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランスPlus取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。	・様々な制度の整備を進め、雇用環境を取り巻く社会的な要請に応えている。 ・関係法令やその改正に適宜対応し、遵守することはもちろん、組織として職員を守るための取り組みを今後も継続していく。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・職員の時間外勤務が増えていることから、業務の見直し、適切な人員配置により、労働環境の向上に努めていただきたい。	A	B	C	D				
A	B	C	D								

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D
	▼ 各関係法令に基づき、施設及び設備の維持管理を行った。 また、故障や破損等については早期発見及び迅速な初期対応に努めるとともに、経年劣化の激しい設備・機器等について、緊急性や安全性を踏まえながら優先順位を付け、計画的な更新・修繕に取り組んだ。	・故障や破損等の早期発見及び迅速な初期対応により、施設利用者への影響を最小限に抑えることができた。 ・トイレやエレベーター、エスカレーターの異常等が発生した際には、速やかに立入制限等の措置を講じ、来館者の安全確保を図ることができた。 ・経年劣化が進行する設備・機器等については、優先順位を付けて更新・修繕を進め、限られた予算内で安全な施設運営の維持に努めた。	・施設の老朽化が進む中、故障や破損を早期に発見し、利用者の安全確保、市民サービス向上のための施設維持管理に取り組んでいることや、設備や機器を計画的に更新していることは評価できる。
	▼ 事件・事故が発生した場合は、的確に状況を判断し、常に利用者の安全を優先するよう職員の意識を統一した。 ▼ 緊急連絡網により、有事の連絡体制を整えた。 ▼ 損害保険等、必要な保険に加入するとともに、AED・救急セット・担架・さすまた・救助用具等を整備し、万一の事件・事故に備えた。	・館内他施設と情報を共有し、有事の際の連絡体制を整えた。 ・利用者の安全や快適な利用のため、貸室内の設備や機器を随時チェックし、整備・修繕に取り組んだ。 ・救急対応等の事件・事故時には、職員・守衛等が連携して対応した。	・複合施設は、関係者が多いため、万が一の際には迅速な対応ができるよう、改めての連絡体制の確認と有事を想定した訓練の実施などによる職員の動きの確認を引き続きお願いしたい。

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

▼ 清掃業務

清掃員を配置し、開館前及び開館中に巡回清掃することで、常に清潔な施設を維持した。ワックス塗布などの定期清掃も計画的に実施した。

・貸室の稼働状況に合わせ、効率よく清掃業務を実施することで、施設利用者に快適な利用環境を提供できるよう努めた。

・貸室の稼働状況に合わせた清掃業務の見直しを評価する。引き続き、利用者が快適に過ごせる施設の維持に努めていただきたい。

▼ 警備業務

警備業務実施要領に基づき、専門の警備員を配置し、防災防犯体制を整え、利用者の安全確保に努めた。

・当施設を利用する方だけではなく、周辺観光施設を利用する方々の往来もあり、施設内が混雑する状況も見受けられた。このため、警備員との情報共有を徹底することで、不審者対応などをスムーズに行うよう努めた。

・地下鉄駅直結であることから、周辺の観光施設利用者の出入りも増えているが、事故なく施設を運営していることは評価できる。引き続き安全確保に努めていただきたい。

▼ 施設維持管理業務

開館から25年以上が経過し、施設の老朽化に伴う不具合が発生しているほか、大規模改修により更新した設備にも一部不具合が見られたが、施設及び設備の機能が長期にわたり良好な状態で維持されるよう、各種の点検及び保守管理を適切に実施した。また、設備の故障や不具合が発生した際には、利用者への影響を考慮しながらできる限り迅速な復旧対応を行った。

・老朽化に伴う不具合や設備故障について、保守委託業者等と連携しながら適切に対応し、施設の安全な運営に努めることができた。
・委託業者による保守点検に加え、職員による定期的な見回りや定例会議での情報共有を行い、不具合等の早期発見と迅速な対応につなげることができた。

・利用者の影響を考慮しながら、不具合や故障などに適切に対応できていることを評価する。
・資格が必要な業務について、業務履行前に資格証の写しを確認する等、確実な業務履行の確保に努めていただきたい。

▼ 修繕

施設維持管理業務委託業者と連携し、修繕箇所が発生した際には、利用者への影響を可能な限り抑えられるよう速やかな初期対応を行った。また、大研修室等の映像音響設備については、専門的な知識を有する職員を配置し、随時保守点検を実施する体制を整えた。

・委託業者との連携を密にし、利用者への影響を最小限に抑えながら、適切かつ迅速な修繕対応を行うことができた。
・専門的な知識を有する職員による日常的な保守点検を行うことで、設備の異常や不具合の早期発見・早期対応につなげることができた。

・予算に限りはあるが、利用者の安全確保を優先した修繕をお願いしたい。

▼ 備品管理

日頃から備品の点検及び保守を実施し、破損や故障が発生した際には速やかな復旧に努めた。また、不要となった備品や修復の見込みが無い古い備品等については、適宜廃棄を行った。

・所管局と連携し、貸室用椅子やブラインド、音楽スタジオ機器、コインロッカー等を更新したほか、当センターでもプロジェクター、貸出用ケーブル等を新調し、利用者サービスの向上につなげることができた。
・陶芸室、アトリエ準備室及び倉庫の備品整理を進め、適切な廃棄及び有効活用につなげることができた。

・積極的な備品の整理(交換・廃棄)に取り組んでいることは評価する。

▼ 駐車場管理

「生涯学習センター駐車場管理運営業務仕様書」に基づき、駐車場管理業者と協議を行いながら、運営を行った。

・可能な範囲で修繕等の対応を行っているものの、躯体や設備の老朽化は顕著となっており、今後も継続的に利用していくためには、大規模な改修等の対応のほか、予防保全の観点を踏まえた検討が必要であると考えられる。

再委託業者との緊密な情報共有(駐車料金・施設維持管理)を徹底し、所管課への迅速かつ正確な報告をお願いしたい。

	▼ 外溝緑地管理 再委託業者に対し随時適切な指導監督、点検確認を行い、利用者の安全を確保するとともに、美観を保持し快適な緑地環境の維持に努めた。 ▽ 防災 ▼ 策定されている防災計画に基づき、災害などの緊急事態に備えた体制づくりを行った。 ▼ 生涯学習総合センター内の4施設合同による防火・防災訓練を令和7年8月、12月及び令和8年3月に実施した。 訓練では、館内を巡回しながら非常用設備の設置場所や機能、使い方などの確認を行ったほか、令和7年12月12日に発出された緊急地震速報への対応を振り返る研修、来館者参加型の避難訓練を実施するなど、実践的な内容により災害対応力の向上を図った。 ▼ 災害時に備え、館内施設内において夜間緊急連絡網の整備・再確認を行い連携を強化した。	・正面玄関前広場の樹木については、成長に伴う根の隆起によりインターロッキングの一部に凹凸が生じている。 今後は、広場内の樹木について、所管局と協議を行いながら、伐採や植え替えを含めた適切な対応について検討していきたい。 ・ホームページを館外から更新できる環境を構築しており、緊急時における情報発信体制の強化を図っている。 ・防火・防災訓練では館内他施設との連携に努め、災害時における協力体制の強化につなげることができた。 ・昨年度に引き続き、来館者参加型の避難訓練（市民カレッジの一環として実施）を開催し、市民を交えた実践的な訓練の充実を図ることができた。	・外構緑地については、施設利用者のみならず、近隣住民も通行することから、引き続き安全管理に努めていきたい。 ・館内他施設との連携強化、利用者参加による実践的な訓練の実施について評価する。 ・複合施設は、関係者が多いため、万が一の際には迅速な対応ができるよう、改めて連絡体制と有事を想定した訓練の実施などによる職員の動きの確認を引き続きお願いしたい。
--	---	--	--

(4)事業 の計画・実 施業務	▽ 生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関する業務 ①さっぽろ市民カレッジの実施 ▼ 1年を3期(4～8月、9～12月、1～3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系統で幅広い年齢層を対象に実施した。 【実績】 受講者 3,642名(計画3,300名)189講座(計画186講座)実施 <
-----------------------	--

＜企画委員会メンバー＞

- ・長谷川聡（北海道医療大学非常勤講師）
- ・丸山博子（丸山環境教育事務所代表）
- ・井上大樹（札幌学院大学准教授）
- ・安富啓（株石塚計画デザイン事務所代表取締役）
- ・細川美香（合同会社ハーヴェスト代表）
- ・臼井栄三（マーケティングプランナー）
- ・栢谷隆男（札幌学院大学特任教授）
- ・角守孝一（ちえりあ学習ボランティア代表）

▼【センター企画講座】

まちづくり活動へのきっかけとなる講座や、ビジネススキルアップに向けた講座など、受講者にとって身近なテーマを取り扱った。講座の中で終了後の活動のイメージを持ち、学んだ成果を活動に生かすことができるような講座を実施した。また比較的受講数の少ない30～40代の受講を促すため、テーマや回数、SNSを活用した広報などの取り組みを試行的に実施した。

▼【大学との連携事業】

大学と連携し、互いの特性を生かした講座を提供した。

【実績】

北海学園大学

「お金の知識で未来をつかめ！」9組18名

「ひとりでもできる！簡単男料理入門」15名

北海道科学大学

「小さいけどすごい！進化する半導体」26名

▼【市民活動団体や専門機関などとの連携事業】

市民活動団体や専門機関と企画段階から連携し、互いの特性を生かした講座を提供した。

【実績】

石山大学

「定山溪鉄道跡をたどる」19名

円山動物園

「環境変化と動物保全の未来」25名

土木学会北海道支部

「建設中の新幹線車両基地を見学」20名

・学んだ成果をちえりあフェスティバルで発表する講座や、ワークショップや現地学習など体験型の講座を開講し、好評を得た。

・北海学園大学との連携講座では、社会教育主事課程の一環として、学生に企画、運営を実施してもらうことができた。

・現地学習を交えるなど、専門性が高い中にも親しみが感じられるような講座を実施した。

・これまで受講数の少ない年代に新たなアプローチを行ったことは評価できる。今後の市民カレッジのあり方を検討するうえでも様々な取り組みにチャレンジしていただきたい。

・今後も市民の興味関心を引く講座の企画をお願いしたい。

	▼【企業との連携】 それぞれの企業の特性を生かした講座を実施し、より専門的で深い知識を提供した。 【実績】 ・雪印メグミルク(株) 「牛のお話と工場探検！」20組40名 ・東洋水産(株) 「子どもラーメン道場」10組20名 ・アサヒビール(株) 「お酒との上手な付き合い方」35名 ・NoMaps実行委員会 「生成系AIで企画書作成力を習得」20名 ・(株)明治 「発見！チョコレートのはみつ」(午前)15組30名 「発見！チョコレートのはみつ」(午後)15組30名 ▼【行政機関との連携】 市内の図書館と連携し、ご近所先生企画講座を実施した。 【実績】 8館13講座	・連携先の強みを生かし、生成系AIや酔いのメカニズムをテーマとした講座を開催した。夏休みや冬休みの親子向け体験型企画など、幅広い世代の学びを支援した。 ・地域における学びの機会を創出した。
--	--	---

▼【ご近所先生企画講座】

「市民の学び合い」をコンセプトに、市民の学習成果の活用を図りながら、地域における新たな学習コミュニティづくりを進めている。

生涯学習センター及び区民センター、図書館等（市内19ヶ所）で、87講座実施した。

なお、本講座の概要は以下のとおり。

●知識や経験を生かしたい市民が講師を務めており、講座の企画から運営までを市民が担っている。

●区民センターや図書館などと連携し、地域における生涯学習活動の活性化を目指すネットワーク型の学習システムであり、連携施設（会場）で実施する講座は、地域特性を踏まえて連携施設が選定している。

●講師が講座終了後も地域で自立した活動が続けるためには、学びたい側のニーズを踏まえた講座企画や、受講者募集のための広報活動を講師自らが行うことが求められることから、その意識を醸成するため最低開講人数を設定している。

【実績】87講座1,374名

▼【ちえりあ学習ボランティア企画講座】

講座やイベントの企画・運営を行う「ちえりあ学習ボランティア」がアート班、歴史班、社会・環境班、札幌学班、健康班の5つの班に分かれて、それぞれのテーマで15講座実施した。

【実績】15講座558名

・第3次札幌市生涯学習推進構想の「まちの活力を高めるための学びの推進」「学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」の実現を目指し、市民が講師（＝ご近所先生）となり、自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開することで、学びを手段とした新たな“縁（＝学習縁）”をつくり出すことができた。

・昨年度の所管局の評価にあった、開講中止講座数の減少の件については、講座の内容や広報を工夫することで、最低開講人数未滿で開講中止となった講座が昨年度の21から10に半減し、開講率を大きく増加させることができた。

・申し込みが定員を超える講座も多くあり、市民の学習ニーズを捉えることができた。

なお、定員を超えた講座については、可能な限り定員数を拡大して対応した。

・開講中止講座数が大幅に減少したことは大いに評価できる。

・今後も魅力的な講座の企画や積極的な広報により、“学習縁”を広げていただきたい。

・市民の学習ニーズを捉えた講座を企画・提供したことは評価できる。

・引き続き、学習成果を活かした社会参加の推進に取り組んでいきたい。

▼ 【学社融合講座】

学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を19講座実施した。講座を修了した生徒は、大通高校の卒業に必要な履修単位として認定された。

なお、講座においては市民と生徒が対話や共同作業を行う機会を設け、世代間の交流を通して社会性や多様な価値観を身につけることを促している。

【実績】19講座464名(高校生含む)

▼ 有機的なネットワークの形成と学びのコミュニティを創造した。

▼ 身近な地域で学びを深める環境づくりの推進

・学社融合講座として、高校生と市民との異世代間交流の学びを図ることができた。

・ご近所先生企画講座において、講座後のサークル化を促し、新たな学びのコミュニティを創出した。
・ご近所先生と事務局、また、ご近所先生同士の交流や情報交換を促進することで、講師バンクへの登録を促すとともに、市民講師相互のつながりを深め、ネットワークや学びのコミュニティの形成・維持に努めた。

・区民センター等のコミュニティ施設や、市内の図書館でさっぽろ市民カレッジ(ご近所先生企画講座)を実施し、地域での学びの場の充実を図った。

・学社融合講座は、講座の内容以上に世代間交流による学びがあると考え。引き続き、異なる世代が共に学ぶことの意義や相互学習による学習効果を見出せるような講座企画を期待する。

・学びをきっかけにした人と人とのつながりづくりに寄与したことは評価できる。
・今後も、市民の「学び」を支援する中核施設として、人と人とのつながりを育む機会の創出に取り組んでいきたい。

・身近な地域での学びは、市民の学習活動を支援するためには重要であることから、様々な学習のニーズに沿った講座の展開に取り組んでいきたい。

②生涯学習に関する指導者等の人材育成

- ▼ 市民カレッジ受講修了者が講師となる講座を設けるなど、様々な形で学んだ成果の活用を促進した。

ア 市民講師育成(ご近所先生)

ご近所先生企画講座の講師を希望する市民を対象に、受講者とのコミュニケーションや指導方法など講師のスキルアップを目的とした研修会を実施した。また講師同志の交流会も開催し、成功例や悩みを共有したほか、その悩みの解消に向けた解決策を考えるワークショップなどを実施した。

【実績】説明会4回(うちオンライン開催2回)90名

研修会4回79名

交流会1回22名

・研修や面談、初回講座の立ち合い及び最終回実施後の面談を通して、講座の企画から運営までを行うことができる講師の育成を図ることができた。

・昨年度の所管局の評価にあった「育成した講師が将来的には生涯学習センターを介さずとも地域で活躍できるスキームづくり」については検討に至らなかったが、調査研究事業において、現在の活躍の状況をアンケートにより調査した。

・調査研究の結果を踏まえ、引き続き、「育成した講師が将来的には生涯学習センターを介さずとも地域で活躍できるスキームづくり」について検討をお願いしたい。
・また、ご近所先生企画講座は、参加者が自主サークルを結成するなど、「学びの循環」実現に資する意義深い取組であり、今後も工夫・改善しながら継続していただきたい。

イ ちえりあビデオクルー

センター事業や他団体による地域の活動・行事などのビデオ撮影・編集を依頼した。映像作品をYouTubeに公開したり、主催者に提出したりすることで、地域の活動のPRに活かしている。また、さっぽろ市民カレッジの動画編集講座にて、講座の企画や運営補助を担ってもらうなど、活動の場を提供した。

【実績】登録者11名

月例会12回

研修会1回

講座企画・運営補助2講座

・ロビーコンサートの撮影から編集・公開に至る一連の作業や、動画編集講座の運営補助など、学習成果を生かす場を提供することができた。

・学習支援者活用推進事業については、コーディネートが難しい取り組みであるにも関わらず、各ボランティアが活躍していることは、市民カレッジ事業の本来目的である「学習成果の活用」の取組みとして評価できる。
・新たなグループの立ち上げの支援にも継続して努めていただきたい。

ウ カメラボランティア

市民カレッジ「カメラで始めるボランティア活動！」の運営補助や、ちえテラスでの写真の作品展示などの活動の場を提供した。

【実績】登録者11名

月例会12回

講座企画・運営補助1講座

活動紹介・作品展示2回

・講座の運営補助や展示に加え、メンバーが講座の広報活動にも能動的に協力する体制が築かれ、内容の充実と学習支援者としての主体的な学び合いを活性化できた。

エ コーラスボランティア さっぽろ市民カレッジ「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたサークルに、同講座の運営補助を務めてもらい、学習成果活用の機会を提供した。 【実績】登録者12名 講座運営補助1講座 ▼ 生涯学習関連施設職員等の研修事業 毎年度、区民センター、地区センター、図書館などの職員を対象とした研修事業を実施している。今年度は、効率的なチラシ等作成のスキル向上を目的として、無料デザイン作成ツールCanvaの操作方法を実践的に学ぶ内容とした。 【実績】2回(12施設、計15名)	・昨年度参加者アンケート結果よりテーマを選定した。 ・Canvaの操作方法を実践的に学べるよう、パソコン画面を操作しながら学ぶ体験型の形式で実施した。 ・機器の数の関係から定員を設け2回実施した。 ・参加者数が少なかったため、より参加しやすい時期などを検討する。	・本研修事業を生涯学習関連施設との連携、交流の機会の創出に繋げていただきたい。
③生涯学習ボランティア育成事業 ▼ 市民カレッジ講座の企画・運営に当たる「ちえりあ学習ボランティア」の活動として、講座企画・運営を話し合う定例会を実施した。また、活動のスキルアップにつながる研修会を実施した。 【実績】登録者 50名 定例会 12回 研修会 3回	・著作権やキャッチコピー、ハラスメントをテーマとした研修をそれぞれ実施し、講座の企画・運営だけではなく、ボランティア同志の横のつながりを意識した内容も取り入れることができた。	・引き続き、登録者同士の交流や研鑽の場を積極的に設け、活躍機会の拡大につなげていただきたい。
④職場体験などの受入れ ▼ 小学校や大学等から、職場体験や社会教育演習の実習などを受け入れた。また、小学生による見学等を受け入れた。 【実績】(職場体験・インターンシップ)6校・1施設 計32名	・施設概要の説明、施設見学及び業務体験を実施し、参加者が職業観を身につけ働くことの意義について考える機会の提供に努めた。	・施設を知ってもらう良い機会でもあるため、可能な限り積極的に受け入れていただきたい。

▽ 生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関する業務

- ▼ 市民が講師(=ご近所先生)となり、自身の特技や経験を生かし講座を企画、運営、活動していく市民講師育成事業について、その成果を確認し、今後の育成、交流の仕組みづくりに生かすことを目的として、平成27年以降のご近所先生講師経験者を対象に、WEBによるアンケートを実施し、その内容を分析した。

【実績】回答数104名

・市民講師が、自ら地域で講師を続けていくために必要な支援など、ご近所先生企画講座の仕組みを取り巻く様々な課題を顕在化することができた。
・課題の解消に向けては、今後検討を進めていく必要がある。

・長年実施してきたご近所先生の課題を整理できたことは大いに評価する。今後に向け、課題の解決を目指していただきたい。

▽ 生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関する業務

①生涯学習情報誌の発行

- ▼ 行政機関、高等教育機関、カルチャーセンター、NPOなど市民向けの学習機会を提供している各種施設の主な開催講座等の情報を掲載する冊子「さっぽろ生涯学習情報」を発行し、市内の公共施設などで配布したほか、ホームページ上に掲載した。

【実績】2回発行(8月、2月)各2,000部

・行政機関や高等教育機関などの施設及び開催講座等の情報を収集し、それらをまとめた冊子を発行することで、市民に学習情報を提供することができた。

・引き続き、生涯学習の中核施設として、市内で行われている多様な生涯学習情報を収集し、市民が活用しやすいかたちで提供する工夫をしていただきたい。

②子どもの学びガイドの発行

- ▼ 市内の公共施設で開催される子ども向け事業を紹介する案内チラシ「子どもの学びガイド」を作成し、市立小学校の長期休業前に全児童に配布したほか、ホームページ上に掲載した。

【実績】4回発行(6月、7月、11月、12月)各90,000部

・小学生向けの生涯学習に関する情報収集及び提供を積極的に行い、学校休業日における児童の自主的な学びを支援した。

③ホームページの活用

▼ ホームページの活用

生涯学習センター事業や講座、施設等に関する情報などをホームページにて発信した。貸室の空室検索機能も備え、利用者の利便性を高めている。また、ホームページ上で新たに各部屋の特徴や利用方法、備品等を紹介する動画の掲載を開始した。

【実績】ホームページアクセス数:859,107件
メールマガジン配信12回
メールマガジン登録者3,149名

【ウェブアクセシビリティ】

- ・ウェブアクセシビリティ方針の公開
- ・「JIS X 8341 3 2016」の適合レベル AA準拠
- ・ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表の公表

・専門業者によるウェブアクセシビリティ診断を実施し、指摘事項の修正を行うなど、適切な対応を行うことができた。
・貸室利用に関する動画の掲載を開始したことで、利用方法や施設の利用イメージをより分かりやすく情報発信することができた。
・ホームページの全面改修には至らなかったものの、既存環境の中で改善を重ね、利便性の向上に努めた。

・貸室利用に関する動画を掲載し、わかりやすい情報発信を行ったことは評価できる。
・今後、利用者を増やすためには、SNSを活用した情報発信が重要となる。まずは登録者数を増やすため、ホームページにSNSアカウントを掲載することや講座受講者への登録案内など、工夫に努めていきたい。

④ 生涯学習センター広報誌の発行

▼ 生涯学習センター主催事業や講座、施設の情報を提供する広報誌「ら・ちえりあつて」を発行し市内の公共施設を中心に配布したほか、LINE公式アカウントやX(旧Twitter)を活用した情報配信も行った。

【実績】

4回発行(6月、8月、11月、12月) 各回:6,000部
LINE公式アカウント友達登録者数:1,404名
X(旧Twitter)フォロワー 145名

・新着講座やおすすめ講座の情報をSNSで配信し、センターへの来館機会がない利用者へも情報発信を行った。
・Xでは、講座情報の他に、施設の近況報告なども行い、フォロワーの増加に努めた。

⑤メディアプラザ運営業務

▼ ア メディアプラザ運営事業

広く学習相談に応じるとともに、図書資料(約26,000冊)と音楽資料(CD・約13,000点)の収集、貸出やレファレンスサービスを通じて、学習活動の支援を行ったほか、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、チラシ・パンフレットコーナーにおいても、市内の生涯学習講座や文化事業のチラシ・ポスターを掲示し、市民への情報提供を行った。
さらには、無料のWi-Fi環境があり、図書資料や持ち込んだパソコンなどを使って調べもの学習ができる学びのスペース「ちえブース」を提供した。

【実績】来場者数 172,099名
利用者数 57,973名

・話題や季節に沿ったテーマ展示を行い、図書や音楽資料の貸出促進に繋がった。

・市民カレッジの講座内容に合わせたテーマ展示を行う等、メディアプラザの利用促進のほか学びを深める取り組みを積極的に行っていることを評価する。

(a) 図書閲覧・貸出 利用者の幅広い調べ学習を支援するため、蔵書約26,000冊を閲覧及び貸出しに供すると共に、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、図書を活用した生涯学習に取り組むきっかけを作るため、所蔵資料や職員の専門性を活かしてファレンスサービスを行った。 【実績】図書・CD貸出数: 74,791点 (b) ちえテラス事業 生涯学習支援スペース「ちえテラス」で、職員による「おはなし会」や、市民カレッジ修了生を中心に結成された読み聞かせボランティア(ファンタジアパル)による「えほんのよみきかせ」を実施した。また、「四季折々」をテーマにカメラボランティアが撮影した写真を展示した。 【実績】 おはなし会(絵本の読み聞かせ) 4回123名 ボランティアによる「えほんのよみきかせ」 2回50名 カメラボランティア作品展示 9/3(水)～3/28(金) 51作品 イ 学習相談、サークル・講師の紹介 生涯学習に関する相談に幅広く対応するとともに、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している講師や、サークル活動の内容を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を提供した。 【実績】学習相談: 15,484件 ちえりあ市民講師バンク登録者数: 241名 サークル登録件数: 153件 ＜メディアプラザでの学習相談の内訳＞ (1) 講座内容等の問い合わせ件数: 33件 (2) 施設の紹介: 487件 (3) 講師の紹介件数: 45件 (4) 講師登録件数: 44件 (5) サークルの照会件数: 490件 (6) レファレンス(図書・視聴覚)件数: 392件 (7) その他(利用案内など): 738件 ＜メディアプラザ以外での学習相談＞ 13,255件	・市民の求めに応じた相応しい情報を提供することができた。 ・昨年度の所管局の評価にあった「講師情報の発信や希望者に対しての登録講師のマッチング」などに関しては、生涯学習関連施設などにヒアリングを行うまでには至らなかった。	・読み聞かせの回数が昨年度より減ってしまっただが、引き続き交流スペースとして積極的な活用を検討していただきたい。 ・調査研究事業の結果、ご近所先生であつても講師バンクを知らない人が多かったという結果がでている。 ・講師バンクの認知度を上げるとともに、地域の学びにバンクが活用されるよう利用しやすい仕組みづくりに努めていきたい。
▽ 生涯学習に関する事業を行う団体との連携及び交流の支援に関する業務 ①生涯学習関連施設職員研修(再掲) ▼ 区民センターや地区センター、図書館などの職員を対象に研修会を開催した。 ②連携講座の実施(再掲) ▼ 大学と連携し、互いの特性を生かした講座を提供した。 ③市立札幌大通高校との学社融合講座の実施(再掲)		

▼【学社融合講座】

学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を19講座実施した。

④民間企業等との連携講座の実施(再掲)

▼【企業との連携】

それぞれの企業の特性を生かした講座を実施し、より専門的で深い知識を提供した。

▽ 学習成果の発表及び鑑賞の支援に関する業務

①ちえりあフェスティバル

- ▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念して、札幌市生涯学習センター、札幌市宮の沢若者活動センター、リサイクルプラザ宮の沢、札幌市教育センターの4団体が、合同で生涯学習活動に気軽に触れることができる多数のイベントを実施し、幅広い年齢層の市民に対して生涯学習の普及啓発を行った。
【実績】8/24日 3,306名(1日間)

・幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図ることができた。
・モルック体験や昔遊びを楽しむコーナーなど参加者が気軽に体験できるプログラムを実施した。

・これらのイベントは生涯学習センターを知ってもらう良い機会であるため、既存事業のPRに活用するとともに、今後も創意工夫した開催を期待する。

②ちえりあロビーコンサート

- ▼ 市内や市近郊で音楽活動などに取り組む個人や団体に、音楽活動の発表の場を提供するとともに、市民に気軽に演奏を聴いてもらう機会を提供した。
【実績】7回(7団体出演)808名

・様々なジャンルの音楽を楽しむ機会を提供しており、リピーターも多く市民の音楽鑑賞の場として定着している。

③サークル発表会

- ▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民がさまざまな生涯学習活動に触れる機会を創出した。
【実績】
(作品展示部門)
11/2日~8(土) 参加15団体(7日間)
(舞台発表部門・音楽)
11/4(火) 出演34団体(1日間)来場者128名
(舞台発表部門・舞踊)
11/5(水)、7(金)、8(土) 出演15団体(3日間)来場者713名

・サークル等の学習成果を発表する機会と、市民がその成果を鑑賞する機会を提供することができた。
・発表内容に合わせた舞台セッティングのため、プログラム順を調整するなど、柔軟なイベント運営を行った。

▽ 生涯学習センターの施設の利用等に関する業務

①貸室事業

- ▼ 市民の学習活動の場として、ちえりあホール及び各種研修室を条例に基づき有料で提供した。

・条例等に基づき、公正かつ公平な貸室運営を行うことができた。
・9月に貸室予約システムを更新し、WEB予約及びオンラインでのクレジット決済やコンビニ決済に対応することで、利用者の利便性向上につなげることができた。

・WEB予約やオンライン決済を導入し、利便性向上につなげたことは大いに評価する。
・窓口でのクレジットカード決済への対応など、今後も利用者視点での改善に努めていきたい。

②施設の有効活用

- ▼ 施設の有効活用及び利用促進に向け、多様な活用方法の創出に取り組んだ。

・「スタインウェイとヤマハの響きを楽しもう」の試行実施
ホールのコンサートピアノを弾き比べできるイベントを昨年度に引き続き試行実施し、本格実施に向けた課題や運営方法の検証を行った。

・こどもの日特別イベント「脱出するゲームinちえりあ」を実施
貸室利用促進に向けた体験型イベントとして、施設を巡りながら親子で楽しめる謎解きイベントを初開催した。

・アトリエの有効活用
アトリエに鏡を設置し、体操やダンス等の活動に対応できる利用環境の整備を行った。

・空き貸室の無料開放を実施
貸室の空き時間を活用した施設開放を実施し、「交流学習コーナー」が満席時における学習機会の確保に努めた。

※ 上記に加えて、「こどもの日特別イベント「脱出するゲームinちえりあ」と「サークル発表会」では広場にキッチンカーの出店を依頼し、広場ににぎわいと交流を生み出す取り組みも行った。

・既存の取り組みに加え、新たなイベントの実施や市民ニーズを踏まえた備品の設置など、利用促進に向けて積極的に取り組むことができた。
・特に謎解きイベントには延べ約700人の親子が来場し、施設の魅力発信を図ることができた。
・貸室の空き時間を活用した施設開放については、従来より開放時間枠を拡大し、学習機会の充実及び利用者の利便性向上に寄与することができた。

・謎解きイベントなど、新しい取り組みにより施設を知っていただく機会を設け、多くの市民が来場したことは大いに評価する。
・また、以前から要望の多い自習室としての利用にも柔軟な対応をしており、その点も評価する。
・今後も、画期的なアイデアで施設の有効活用をお願いしたい。

	▼ ロビー・ギャラリーの活用 【実績】ロビー10件 ギャラリー9件 ・ロビーにて市民カレッジの講座情報を紹介する展示などを行った。 ・ロビーに新たに机と椅子を2セット(計9席)設置した。 ・一般団体の作品発表の場などとしてギャラリーを提供した。 ▽ その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業 ①カルチャーナイト ▼ 公共・文化施設、企業施設の夜間開放や動画配信などを通じて様々な文化プログラムを提供しているカルチャーナイトに令和7年度も参加し、洋画の無料上映会を実施した。 【実績】 7/25(金)「世界にひとつの金メダル」 来場者数39名 ②ゆりかごコンサート ▼ 本物の楽器の音に親しむ機会の少ない子育て中の親を対象に、その子どもと一緒に気軽に音楽を楽しんでもらえるコンサートをちえりあホールにて開催した。 【実績】3/19(木)あみゆぜ。 131名	・ロビーでは定期的に展示を行い、市民に学習情報を提供した。また、新たにテーブルと椅子を数セット設置し、市民や観光客の憩いの場を創出することができた。 ・子どもが飽きずに楽しめるよう、リトミックなども取り入れて実施した。 ・実施時期については、季節や、幼稚園及び保育園のイベントなども考慮していきたい。	・利用者のみならず、多くの人に憩いの場として活用していることを評価する。センター主催のイベントなどを実施し、施設利用につなげていきたい。 ・魅力的なイベントであるにも関わらず、参加者が少ないのが残念である。実施時期や広報を検討して、多くの方に楽しんでもらえるよう工夫をお願いしたい。
--	--	---	---

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 別添のとおり ▽ 不承認0件、 取消し91件、 減免1,232件、 還付92件 (変更による還付含む) ▽ 利用促進の取組 ▼ より多くの方々に学びの場を提供するため、貸室に係る情報発信の強化や利用者にとって魅力あるサービスの提供に取り組んだ。 ▼ 貸室利用の促進ために下記の取り組みを行った。(再掲) ・「スタインウェイとヤマハの響きを楽しもう」の試行実施 ・こどもの日特別イベント「脱出するゲームinちえりあ」を実施 ・アトリエの有効活用 ・空き貸室の無料開放を実施 ※ 上記に加えて、「こどもの日特別イベント「脱出するゲームinちえりあ」と「サークル発表会」では広場にキッチンカーの出店を依頼し、広場ににぎわいと交流を生み出す取り組みも行った。	・軽運動での利用が多いアトリエに新たに可動式の鏡を3枚導入するなど、利用者ニーズを踏まえた環境整備を行うことができた。 ・各部屋の特徴や利用方法、備品等を紹介する動画をホームページに掲載し、初めて利用する方にも貸室の概要をわかりやすく伝えるようにした。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> ・利用者ニーズへの対応やイベントによる利用促進、貸室の動画掲載など様々な工夫を行い、利用率向上につながる取り組みを積極的に行っていることを評価する。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	・利用者ニーズへの対応やイベントによる利用促進、貸室の動画掲載など様々な工夫を行い、利用率向上につながる取り組みを積極的に行っていることを評価する。			
A	B	C	D								
・利用者ニーズへの対応やイベントによる利用促進、貸室の動画掲載など様々な工夫を行い、利用率向上につながる取り組みを積極的に行っていることを評価する。											
(6)付随業務	▽ 広報業務(再掲) ▼ 広報誌「ら・ちえりあって」を発行し市内の公共施設を中心に配布したほか、LINEやX(旧Twitter)を活用した情報配信も行った。 ▼ ホームページの活用 生涯学習センター事業や講座、施設等に関する情報などをホームページにて発信した。 ▽ 引継ぎ業務 ▼ 継続して指定管理業務を行っているため、引継ぎは発生していない。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> ホームページのトップページに案内を載せる等、SNS登録者数を増やすための取り組みをできることから行っていたきたい。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	ホームページのトップページに案内を載せる等、SNS登録者数を増やすための取り組みをできることから行っていたきたい。			
A	B	C	D								
ホームページのトップページに案内を載せる等、SNS登録者数を増やすための取り組みをできることから行っていたきたい。											

2 自主事業その他			
▽ 自主事業 ① レストラン事業 ▼ ちえテラスに隣接したスペースにおいてカフェを運営し、来館者へ飲食物等を提供した。 売上手数料収入4,208 千円(計画 3,833千円) ② 自動販売機事業 ▼ 売上高3,213千円(計画 3,144千円) ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 委託業務、物品の購入などは、特殊なものを除き市内企業の活用に努めている。一部、印刷物の作成などは、その内容・金額等の条件が許す範囲内において、障がい者就労支援施設のサービスを活用した。 ▼ 障がい者雇用(令和8年3月末時点で2名雇用)			A B C D ・自主事業については、サービスの向上と収益性の両面を見据えた事業展開を期待する。
			・サークル活動前後の交流や、学生の勉強、地域の憩いの場などに活用してもらうことができた。 ・売上額が堅調に推移しており、ニーズに応えた運営ができたものと考え ・物品購入等は極力市内企業の活用に努めている。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	貸室利用者、メディアプラザ利用者、講座受講者、期間中の主催事業参加者を対象に記述式のアンケートを実施。 期間：R7/10/31～R8/1/19 ※ただし、貸室利用者には利用の都度アンケートを行っているため、4月から12月末までに回収した全件を集計している。																																																		
結果概要	●総合満足度 【貸室利用者】(N=2,528) <table><tr><th>とても満足</th><th>まあ満足</th><th>普通</th><th>少し不満</th><th>不満</th></tr><tr><td>63.0%</td><td>34.8%</td><td>2.0%</td><td>0.2%</td><td>0.0%</td></tr></table> 【事業参加者】(N=415) <table><tr><th>とても満足</th><th>まあ満足</th><th>普通</th><th>少し不満</th><th>不満</th></tr><tr><td>49.9%</td><td>45.3%</td><td>4.1%</td><td>0.7%</td><td>0.0%</td></tr></table> ●接遇 【貸室利用者】(N=2,535) <table><tr><th>大変良かった</th><th>まあ良かった</th><th>普通</th><th>あまり良くなかった</th><th>悪かった</th></tr><tr><td>68.7%</td><td>26.9%</td><td>4.4%</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr></table> 【事業参加者】(N=413) <table><tr><th>大変良かった</th><th>まあ良かった</th><th>普通</th><th>あまり良くなかった</th><th>悪かった</th></tr><tr><td>63.7%</td><td>32.4%</td><td>3.2%</td><td>0.7%</td><td>0.0%</td></tr></table> ●生涯学習事業 【事業参加者】(N=381) <table><tr><th>とても満足</th><th>まあ満足</th><th>普通</th><th>少し不満</th><th>不満</th></tr><tr><td>49.3%</td><td>45.7%</td><td>4.5%</td><td>0.5%</td><td>0.0%</td></tr></table> 2階の窓口、1階メディアプラザ及び交流学習コーナーの掲示板に、アンケートの集計結果や寄せられた意見やその回答を掲示した。	とても満足	まあ満足	普通	少し不満	不満	63.0%	34.8%	2.0%	0.2%	0.0%	とても満足	まあ満足	普通	少し不満	不満	49.9%	45.3%	4.1%	0.7%	0.0%	大変良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	悪かった	68.7%	26.9%	4.4%	0.0%	0.0%	大変良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	悪かった	63.7%	32.4%	3.2%	0.7%	0.0%	とても満足	まあ満足	普通	少し不満	不満	49.3%	45.7%	4.5%	0.5%	0.0%
とても満足	まあ満足	普通	少し不満	不満																																															
63.0%	34.8%	2.0%	0.2%	0.0%																																															
とても満足	まあ満足	普通	少し不満	不満																																															
49.9%	45.3%	4.1%	0.7%	0.0%																																															
大変良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	悪かった																																															
68.7%	26.9%	4.4%	0.0%	0.0%																																															
大変良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	悪かった																																															
63.7%	32.4%	3.2%	0.7%	0.0%																																															
とても満足	まあ満足	普通	少し不満	不満																																															
49.3%	45.7%	4.5%	0.5%	0.0%																																															
利用者からの意見・要望とその対応	・「全館のフリーWi-Fi」を望む声が毎年多数寄せられるが、経費等の問題があり、実現には至っていない。今後は貸室内の有線LANに繋いで室内で利用できるWi-Fiルーターの貸し出しを含め対応を検討したい。 ・鍵の貸出時間や返却時間の繰り上げ・繰り下げを望む声も複数寄せられたが、利用後に各部屋の清掃を行っており、今後の課題と受け止めている。 ・オンライン上での貸室予約とクレジットカード等の決済を開始したことへの感謝の声が複数寄せられた。 ・楽器やブラインド等、設備や備品に関する要望も多いため、優先度や重要度を見極めつつ、引き続き所管局と連携して対応したい。																																																		

・より多くの利用者の声を施設運営に反映するため、昨年度を上回る延べ2,500名以上からアンケートを収集した。結果、多くの利用者の意見を把握することができた。

・アンケートでは全ての項目で高い評価を得ることができた。

・アンケート結果の掲示場所を増やすなど、市民へのフィードバックの充実を図ることができた。

・職員全体で意見・要望を共有し、実現すべく取り組んだ。

A	B	C	D
・アンケート結果において、要求水準を上回っていることは評価できる。 ・利用者からの意見・要望については、できる限り対応し、市民サービスの向上に努めていただきたい。			

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R7年度計画	R7年度決算	差 (決算-計画)
収入	528,442	519,784	▲ 8,658
指定管理業務収入	521,465	512,363	▲ 9,102
指定管理費	415,331	413,921	▲ 1,410
利用料金	92,656	85,561	▲ 7,095
その他	13,478	12,881	▲ 597
自主事業収入	6,977	7,421	444
支出	571,315	541,413	▲ 29,902
指定管理業務支出	565,953	537,605	▲ 28,348
自主事業支出	5,362	3,808	▲ 1,554
収入-支出	▲ 42,873	▲ 21,629	21,244
利益還元	0	0	0
法人税等	60	856	796
純利益	▲ 42,933	▲ 22,485	20,448

▽ 説明

- ▼ 計画上では、▲43百万円の純利益という厳しい見込みであったが、経費の節減に努めたことにより、最終的には純利益が▲22百万円となった。20百万円ほど赤字幅を圧縮できたものの、収支状況としては昨年度に引き続き厳しい結果となった。

・人件費や物価が軒並み高騰し続けている社会情勢の中で、現状のサービスを維持しつつ、経費の縮減に努めた。
・貸室利用件数は前年度を上回ったものの、貸室利用料収入は前年度を下回った。これは、比較的低廉な料金の部屋の利用が増加した一方で、利用料金が高額なホールや講堂の利用が減少したためである。

A B C D
・人件費や物価高による厳しい財政状況の中で、サービスを維持していることに感謝する。

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持		適 不適
▼ 公益財団法人として求められる水準を満たすため、主たる事業である公益目的事業において利益を得ることはできていないが、貸室の利用率やさっぽろ市民カレッジの受講者数などは一定の水準を保っている。		
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適 不適
▼ 札幌市個人情報保護条例の趣旨に則り「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団個人情報保護規則」及び「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団個人情報事務取扱要綱」を制定し、個人情報を適正に管理した。		
▼ 管理サイト全体の暗号化、個人情報パスワード保護に加えチェック体制の強化に努めている。		
▼ 主な個人情報について、紙媒体は鍵付きキャビネットで、電子データはパスワード管理にて、厳格な保守管理の下、適正に取り扱っている。		
▼ 情報公開については、ホームページ上で個人情報の取扱いの、基準及び規程を公開している。		
▼ 財団の定款、役員名簿、事業計画、事業報告、財務諸表等をホームページで公開しており、センターの運営状況の積極的な情報開示を行っている。		
▼ 受託者やその他契約の相手方について、「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」と「暴力団の排除に係る照会事務マニュアル」に基づき事務を行っている。		
▼ 業務委託などの取引先をはじめ、貸室利用受付時においても暴力団員または関係事業者を相手方としないよう確認している。		

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
市民カレッジでは、これまでの取り組みに加え、新たな試みとして、学んだ成果をちえりあフェスティバルで発表する講座や、若い世代に情報が届くようにショート動画による講座の案内及び開講風景のホームページ掲載などインターネットやSNSを活用した広報を試行的に実施した。	市民カレッジの受講者の利便性に配慮した受講料のキャッシュレス対応など支払方法の多様化に向けては、新たにシステムを導入する必要がある。このため、今後の財団の経営状況を十分に勘案しながら、導入に向けた準備を引き続き進めていく。
メディアプラザでは、これまで同様、時節に合わせた図書やCDの特集に加えて、ちえテラスにおいて子どもや乳幼児を対象とした絵本の読み聞かせを開催するなど、幅広い世代に向けた利用促進に努めた。	メディアプラザについては、これまで行った課題等の整理に加え、必要な情報収集などを行い、今後求められる機能や役割について整理していく。
貸室関連については、令和7年9月より新たな貸室予約システムを導入し、WEB予約や利用料金のキャッシュレス決済を可能とすることで、利用者の利便性向上を図った。 また、ホールでのピアノの弾き比べや全館を使用した謎解きイベントを実施するなど、貸室及び施設の利用促進やPRに取り組んだ。 さらに、ホームページ上で貸室の全体的な雰囲気や利用可能な備品等を分かりやすく紹介する動画の公開を始めた。これにより、初めて利用される方の利用へのハードルを下げるができるものと考えている。	新たな貸室予約システムの導入後に明らかとなった課題について検証を行い、必要な改修を進めることで、更なる利便性の向上を図る。併せて、窓口においてもキャッシュレス決済ができるよう整備を進める予定である。 また、貸室の利用促進に向けて、イベントの実施やホームページによる情報発信の充実、新たな企画の実施など、様々な取り組みの検証と改善を重ねながら、新規利用者の獲得及び利用機会の拡大に取り組む。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
・人件費や物価の高騰により、厳しい財政状況の中、利用率向上や市民カレッジ等の充実を図る様々な取り組みを行っていることを評価する。 ・施設の老朽化が進む中、可能な範囲で計画的に修繕を行い、備品を整えていることを評価する。 ・貸室利用については、WEB予約やオンライン決済の導入、ホームページへの貸室利用説明動画や施設を知ってもらうためのイベントなど利用率向上に向けた取り組みを評価する。今後は窓口でのカード利用や新たなイベント企画など、新規利用者拡大に向けた取り組みを期待する。 ・市民カレッジでは受講者数の少ない年代へのアプローチや、調査研究事業では今後の事業展開につながる調査を実施したことを評価する。今後は、受講料支払いのキャッシュレス対応の検討を進めるとともに、SNSを活用した受講者層の拡大を期待する。また、調査研究事業の結果をもとに、既存事業の見直し及びメディアプラザの活用方法の検討も期待する。 ・本市の生涯学習の中核施設として、引き続き機能の拡充・強化に取り組んでいただきたい。	・業務財務検査で助言したとおり、生涯学習センターは札幌市の生涯学習の中核施設として生涯学習のコンシェルジュ（総合窓口）の役割を担っていることから、重点取組に位置付けられているメディアプラザのあり方検討においては、市民の学びを支える専門知識を持つ人材の育成についても、併せて検討いただきたい。